

# 建築概論 特別演習

14

## 自分がだけの想像できる空間、場所、環境を創ろう。

開講年次：学部1回生 前期

[担当教員]

大谷弘明（神戸大学客員教授／日建設計執行役員）

遠藤秀平（教授）

[準備補助]

浅井 保（助教）、山口秀文（助教）、高麗憲志（技術職員）



自分が藝大の建築科に入学できた時のこと。早く建築の課題が出ないものかとうずうずしていたことを思い出す。藝大では一年生の一学期からすぐに専門教育が始まる。ほかの大学でも似たような教育が行われているものと最近まで錯覚していたぐらい、大学時代は伸び伸びとした教育環境の中で過ごしていたのだ。

まったく幸せだったと言わなければならない。

日本の高校までの教育では、造形や空間を考えるような授業も場所もほとんどなかったはず。皆さんは3Dゲームの中で育ったかもしれない。いまや、建築学科に公式に入学された皆さんは、だれも想像したことのない場や空間や建築に向き合うことが許される。ついにその時が来たのだ、と自覚してほしい。

この課題、白いケント紙を使うだけでも実にいろいろなものが出来上ることを知ってくれたと思う。単にオブジェとみえるもの。ドールハウス的な設えになったもの。そして空間という可能性を内包した作品まで。この時間の体験を武器に、ことあるごとに自ら模型を製作してみることをお薦めしたい。たぶんそれは課題に向き合う時、自己のアイデアを客観的に眺めてみようとする時になるだろう。何かを創り出そうとする自分とその何かを確かめ批評しようとするもう一人の自分と。これからは「一人二役」となるはずだ。さあ、やってみよう。（大谷弘明）



作品制作風景



選ばれた作品について一つずつ講評

### ■演習課題

みなさんはこの4月に栄えある建築学科に入学されました。

これからは建築の専門家教育を学ぶことができます。

みなさんは日頃、建物をどんなふうに見ていますか。

これから先には、すべての人におどろくべき未知の建築体験が待ちかまえているはずです。

きょうは、みなさんといっしょに建築空間とはなにものであるか、いつしょに考えたいと思います。

ただ考えると言っても、頭で考えるのではありません。手を使って、手を動かしながら考えようとおもいます。

建築とはオブジェではありません。建築とは空間で成り立っています。人間を取り巻くすべてが空間であると言つても過言ではありません。

たった2時間半（150分）の課題ですから、テーマは単純です。

### 『自分がだけの想像できる空間、場所、環境を創ろう。』

映画の中、夢の中、居心地の良い場所の体験、大自然のなかで感じることなど、

みなさんの頭の中にあるさまざまな空間イメージを引き出しながら、それを実際の立体にしてみましょう。

考えながら形にし、実際に組み上げて、出来上がりをまわりと比較し、見て、感じて、批評しあうこと。

これらがすべて建築的な『体験』の事始めになります。言い換えれば『原体験』となります。

オリジナリティあふれる独創的な自分だけの空間をできるだけ形にしてみましょう。

・日 時 7月24日（金）1、2限（8:50～12:10）

・場 所 鶴甲第一キャンパスK棟 K401

・時間配分 事前の説明 8:50～9:10

製作時間 9:10～11:40

講評 11:40～12:10

・材料

目の前に用意されているケント紙、はさみ、テープをつかいます。

\*製作のスケールは自由です。人型の切り抜きをひとつつくり、自分のつくった空間の中に配置しましょう。



作品講評風景